

一般講演 6 : 「エピソードに基づく人材評価と技能伝承」

1. エピソードの内容を相手に受け入れられる形で書くのは難しい。

記述内容は、いかなるものであれ相手に関心を持ってもらうことが重要です。職歴や資格をつづったものについて関心を持ってもらうのは難しいと思いますが、エピソードは、少なくとも本人にとっては喜怒哀楽を伴う重要な経験であり、それを他者に共感を持ってもらえる可能性は大きいと思います。それを表現する能力は、文章能力に依存しますが、主たる要因ではないと思います。留学生の経験談などは、たどたどしい表現でも感動を与えてくれます。

2. ハイスکیل人材とは、ユーザーへのソリューションを提供できる人材。

ソリューションは短期的なビジネスにフォーカスした一つの事例ですが、技能伝承・人材育成という観点からすると教育的な観点を重視する必要があります。老練なハイスکیل人材は、長期的な視野で社会とその構成員に恩恵を与え得る人物ではないかと思えます。特定の企業に貢献するよりは社会全体に貢献するプロフェッショナルが真のハイスکیل人材だと思います。

3. 具体的なものを知りたい。FOAF との関係はいかがでしょうか？

エピソードに関係付けられた具体的な履歴書情報は、将来的には会員制の Web サイトの内部でアクセス権を設定して参照を可能にするのが現実的だと思います。拡張可能な履歴書の観点から、PIM のスケジュール管理 (iCalendar) やアドレス帳 (vCard) と関係付ける試みはしています。CLOS の多重継承を活用してインスタンス生成し、それを XML 化し Web 表示する検討を行いました。[大野, 王; “Common Lisp によるパーソナル情報の管理と Web 表示に関する研究”, 画像電子学会研究会第 255 研究会 in 鹿児島, (2011.3.4)] FOAF を含め RDF を用いるスケジュール情報 (RDF-CALENDAR) やアドレス帳データ (RDF-VCARD) は、履歴書の職歴におけるスキルのエビデンスを支援する情報としては意味がありますが、個人情報保護法との関係で扱いが非常に難しいですね。

4. ダイナミックな知 (頭のなか) の働き、行動と結果、経験を能力評価に結びつける方法がないものかと思えます。同じ知識量があっても、「できる人」と「できない人」の違いは、ダイナミックの中にあると思えます。

抽象的な能力評価よりは事実としての実践的な結果を重視すべきで、後者の事例をエピソード

ードとして位置づけています。「知識量」や「できる」という概念が客観的なものとは思えません。知識量は記憶力に近いと思いますが能力評価尺度として妥当でしょうか。むしろ既存の知識の矛盾から疑問を感じてそれを表現する能力が価値ある知識ではないかと思えます。それは創造的であると同時に批判力に通じるものでしょう。しかし既存の組織は批判力を歓迎しない場合が多いと思えます。

5. 技能をエピソードとどう関連づけるのか、その根拠とともに具体的な方法が示されていると良かった。表題と関係ない話が多かったように思われます。

技能は形式知ではなく暗黙知に支配され、暗黙知は個人的な振舞いや発想法のような、直知 (Acquaintance) による知識に依存し、それらは個人的なエピソードを通じて情報共有し伝達することができるということが基本的な主張です。報告内容は、この考え方の背景や既存の事例を紹介しています。

6. エピソードの包括的な定義が聞けて新鮮でした。

ありがとうございます。

7. 現在の日本において独創性、拡張性のあるエピソードや履歴書は正當に評価されると考えていますか？日本では大量に読む必要があるため、統一性のある、一目でわかる今の履歴書しか受け入れられないのではないのでしょうか？

私は在籍してきた複数の企業で自分が必要とする人材の中途採用のために履歴書を見て来ましたが、実際の人物評価は面接を通じて行いました。履歴書は、記述による知識ですが面接は直知による知識です。ですから履歴書は所詮関心のある人材のフィルタリングでしかなく、実際の人物評価には使えないと思えます。その点、エピソード記述は面接での話題に近いので、人物評価には有効ではないかと思えます。

8. 派遣社員の情報には担当業務など、たくさん書いてありますが、やる気が重要だと思いますがいかがでしょうか？

自分を売り込むためには、事実情報を大量に記述するのは有効な方法だと思います。やる気は重要ですが、それは個人の資質と環境、コンテキストなどに影響されます。優れた教育者 (ハイスキル人材) は、環境とコンテキストを設定し、対象とする個人の資質を引き出し伸ばすものだと思います。それが「やる気」につながると思いますが、技能伝承はそのようなパターンで行われることが望ましいと思えます。